



扇山

第65号

発行・編集 松里中 PTA

令和8年3月11日 発行



1年間の歩みを振り返って

令和7年度 PTA 会長 小林 宏至

まずはじめにこの一年間、校長先生をはじめとする先生方、保護者及び地域の皆様には温かいご支援とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

この一年を振り返りますと様々なことが思い出されます。四月には五名の新入生を迎え、入学式が執り行われました。静かな体育館に響く呼名。一人ひとりの返事が、はっきりと聞こえ胸に届きました。少人数ではありましたが、その分、子供たち一人ひとりの表情がよく見え、緊張感の中にも希望に満ちたまなざしがとても印象的でした。

九月には子供たちの晴れ舞台、松里中学校が一致団結した松風祭が行われました。文化祭での合唱や発表でステージに立つ姿、体育祭での互いに声を掛け合う姿、裏方で刺させる姿、誰もが主役でその一つひとつが輝いていました。その一体感は見ている私たちの胸を何度も熱くしてくれました。当日の頑張りはもちろんのこと、それまでの過程に大きな拍手を送りたいです。

十一月の有価物回収事業においては、当初生徒数や家庭数の減少により実施できるのかどうかというところからのスタートでした。事前調査、打ち合わせ会を開きました。当日は、保護者の皆様、地域の方々の支えと協力、子供たちの頑張りのもと、無事に実施することができました。心よりお礼申し上げます。有価物回収を通し子供たちが学んだ協力する力、やり抜く力、そして地域への感謝の気持ちは大きな経験となったことでしょう。

P T A活動を通して、多くの学びと貴重な経験ができました。かけがえのない時間を過ごさせていただきました。私も松里中学校の卒業生として、これからも母校の発展と笑顔あふれる温かな場所であり続けることを心から願い、感謝の言葉とともに一年間のお礼とさせていただきます。



【有価物回収の様子】



笑顔があふれ 人を大切にし 命の輝く 松里中学校を目指して

校 長 三枝 ゆかり

令和7年度の幕が閉じようとしています。本年度も多くの地域の皆様・保護者の皆様の多大なるご理解とご支援を賜り、充実した松中教育が展開できましたことに心より感謝申し上げます。本年度は「コンパクトでインパクトのある教育活動の展開」「Be partners」をキーワードに、「笑顔があふれ 人を大切にし 命の輝く学校」を目指してまいりました。昨年度からの新・松中ブランドを継承し、育てたい力である5C（図1）を中心に、その力を発揮する活動の場5ba（図2）を軸とし教育活動を展開してまいりました。

まず、5ba(場)についてです。学びの場では、恵林寺での座禅体験・放光寺での平和学習・わだつみ平和文庫等を訪れ、教室では学ぶことのできない体験や探究活動を実施することができました。のびる場では、テスト前に質問するなど先生や友達との良き勉強の場となりました。のびす場では、先生方の講座から自分の興味のある学習を選択し、一緒に考えたり、体を動かしたりしました。創造の場では、全校で標語を考えたり、松尾神社の清掃を行ったりしました。今年度、本校が新たに挑戦したのが、全校生徒による弦楽器の合奏です。「ミュージックの場 (ba) 」として取り組んだこの試みは、音楽部以外の生徒にとっては初めて弦楽器に触れる経験でした。指先一つで音程を決める弦楽器の難しさに、当初は戸惑う姿も見られましたが、部活動指導員の飯田先生の熱心なご指導のもと、生徒たちは一音一音を大切に紡いでいきました。学園祭で披露した「ひまわり」では、暑い日差しの中、真っ直ぐに太陽を見上げる力強い姿が松中生と重なりました。また、3年生を送る会で奏でた「花は咲く」には、「震災の悲しみを乗り越え、未来へ希望をつなぐ愛と鎮魂の思い」が込められています。松中生全員の心を一つにし、3年生の明るい未来を祈るとともに、関わってくださる全ての人への感謝の気持ちを表現しました。

PTA 活動においても、本校の絆の深さを改めて実感する一年となりました。年度当初、家庭数減少に伴い継続が危ぶまれた「有価物回収」ですが、3年生の保護者の皆様を中心に「卒業生や地域の方にも協力を呼びかけよう」という前向きな輪が広がりました。結果として、昨年度を上回るご協力をいただき、収益以上に「生徒の貴重な勤労体験」と「地域との交流」という大きな意義を改めて感じることができました。

学校・家庭・地域が手を取り合い、子どもたちを「真ん中」に置いた教育環境は、本校の大きな財産です。来年度も、この良き伝統を引き継ぎ、さらなる高みを目指して職員一同邁進してまいります。

一年間の温かなご協力、誠にありがとうございました。

松里中で大切にしたい

図1

5C
2025

- 01 communication 言葉の力 対話
- 02 challenge ゴールへ 挑戦 継続
- 03 curiosity やってみよう！好奇心
- 04 co-operation 協働 切磋琢磨
- 05 community 地域連携 貢献 誇り

松里中で大切にしたい

図2

5ba
2025

- 01 Nobiruba テスト前の集中学習
- 02 Nobasuba テーマ学習等
- 03 Manabinoba 松里探求プロジェクト
- 04 Souzounoba 創造タイム 発表
- 05 Musicnoba 全校合奏 表現力



卒業おめでとう！3年間、一生懸命によく頑張ったね。ここでの経験を糧に、
未来を切り開いていこう！これからも応援しているよ。 有川 栄雄・美佐

変化の多い3年間、いろんな出会いと別れがありました。自分と向き合い、今出来ることを見
つけ挑戦出来た事はこれからの宝となるでしょう。自分らしく歩いてね。 市川 博志、紀子

穂ちゃん卒業おめでとう！この先は、自分で選んだ道を進みます。最後まで諦めず、自信を持っ
て！いつも側に居て応援しているよ☆ 小林 宏至・美奈

春の光に包まれ、日々が背中を
押し、別れに胸が少し痛むけ
ど、新しいいぶきと共に未来
へ、これからも応援するよ、お
めでとう。

柴田 大地

卒業する わが子へ

卒業おめでとう。これからの人
生、やりたいことをたくさん見
つけて頑張ってください。

田中ちぐさ

卒業おめでとう。新しいステージへ
進む時が来ました。自分の気持ちを
大切に、失敗を恐れず挑戦してくだ
さい。いつも応援してます。

忠臣 父・母より



卒業おめでとうございます。これ
まで積み重ねてきた努力と経験、
自分を信じ、夢や目標に向かって
真っすぐ進んで挑戦してくださ
い。

手塚 達也・麻代

卒業生の声

有川 大雅（3年）

私がやるべきことではないことまでカバーし、学校をより良くするきっかけを作った。

市川 結希（3年）

たくさん読書をして、自分の新たな一面を知ることができた。

小林 穂里（3年）

大変やったけど、自分のペースで最後まで頑張れた。

柴田 気吹（3年）

何もかもが新しい経験で、迷いながらも自分の歩き方を見つけた一年だった。

田中利伊大（3年）

みんなで行った修学旅行が楽しかった！万博や京都でよい思い出作りができた。

手塚 忠臣（3年）

とても役割が多く大変なときもあったけれど、1つ1つが大切な思い出になった。

手塚 実咲（3年）

自分自身を成長させることのできた一年間でした。大変なことも多かったが、全校で協力することが
できました。



～令和7年度を振り返って～

生徒会スローガン 「心頼 ～ Our Choice Our Action ～」

生徒会長 手塚 実咲

とても楽しく、とても大変な一年間だったと感じています。会長という大きな役職でプレッシャーを感じることも多く、活動が上手くいかないことも多かったですが、皆さんの支えのおかげでここまでやってこられました。皆さんの協力があったからこそ、数多くの生徒会活動を成功させることができ、生徒会スローガンである『心頼』も深めることができたと思っています。今まで私たちにたくさんのサポートをありがとうございました。

副会長 有川 大

雅

一年間、生徒会執行部として、活動してきて、楽しく、少し大変でした。どういった声かけをすれば周りをうまく動かせるか、どうしたら、活気づけられるかを一番考えました。学園祭のときに、周りを鼓舞し、励まし続けたのが、一番記憶に残っています。これまでの経験を活かして、高校生活を頑張っていきたいです。

副会長 山崎 夏

萌

ハードな毎日でしたが、成長することができた1年間でした。行事に向けての活動で大変な時があり、苦しかった時期もありました。しかし、全校生徒のみなさんや先生方に支えられ、たくさんの行事を最後までやりきることができ、成功できたと思います。全校生徒一人ひとりが協力する気持ちを持ってくれたから、私にとっても思い出に残る活動ができました。今まで支えてくれて、ありがとうございました。

庶務 手塚 忠

臣

この1年間、生徒会執行部として活動してきました。多くの役割が重なり、一番大変でしたが、そこから様々な経験を得ることができ、成長することが出来た1年間でした。私がやり遂げられたのは、先生方や生徒のみなさんの支えがあったからです。全校一人ひとりが指示をきちんと聞いて、自分から行動してくれたので、多くの行事を成功させることができました。本当にありがとうございました。

庶務 町田 花

音

この生徒会活動の1年間は私を大きく変えるものとなりました。最初は上手くいかず、悩み、時には責任に押しつぶされそうな日もありました。それでも、全ての活動を成功させることができたのは、仲間や様々な方々に支えていただいたおかげです。全力で一生懸命なみんなが居たからこそ、最高の思い出として、活動を笑顔でやり切ることができました。今まで支えてくれた皆さん、最後まで本当にありがとうございました！



中学校に入学して

1年 青柳 桃花

この一年間、一年生は「新しいことへの挑戦」の連続でした。特に印象に残っているのは、松風祭です。最初は練習が大変でへとへとになっていましたが、みんなで励まし合い、一つの目標に向かって努力する大切さを学びました。様々な行事の取り組みを通して、私たちは「自分で考えて行動する力」が少しずつ身についたと感じています。周囲の状況を見て、今、何をすべきかを判断できるようになってきました。四月からは後輩を迎え、二年生になります。先輩方に教えていただいたことを今度は自分たちが後輩に伝えられるように、自覚と責任感を持って、さらに充実した学校生活を送りたいと思います。



成長の日々と最高学年としての姿

2年 長沢 心人

私が印象に残っていることは2つあります。それは宿泊学習と松風祭です。宿泊学習では、ナイト追跡や野外炊事、スコアオリエンテーリングなどを仲間と協力しながら全力で楽しみ、学ぶことができました。

松風祭の学年発表では「ちいちゃんのかげおくり」をみんなで演じました。最初はみんなの心がひとつになっておらず、練習中も気持ちを込められていませんでした。そこで僕達は目的とそれぞれの思いをお互いに伝え合い、心をひとつにしました。そこからの練習では一人ひとりが気持ちを込めながら演じることができ、本番では見ている人に思いを伝えられた最高のものを作ることができたと感じています。この一年間、僕達は仲間と協力しながら成長してきました。次は最高学年として、後輩のお手本になりながら学校を引っ張っていけるような存在になっていきたいです。



一生の宝物



3年 小林 穂里

私たちは入学してきた頃から少人数で不安も沢山ありました。最初の頃はお互いの気持ちを理解することができず言い合いになったり喧嘩をしたりすることも沢山ありました。しかし2年生になり、宿泊学習という行事がありました。その行事を通して、お互いの気持ちを理解しあい、お互いに協力したりすることも増えてきました。3年生になり学校のリーダーとして色々な場面で責任を重く感じることもあり、すごく大変でした。仲間が困っている時にはお互いを支え合いながら松風祭などの行事を最後までやりきってきました。一緒にいる時間が長くなるほどお互いのことを尊重しあうことができ、仲良く楽しく過ごすことができました。3年生のみんな、本当にありがとう！